

日本語を母語としない子どもたちとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信
JSL (=Japanese as a second language)

平成30年8月 第4号

発行者 会長 熊本 修治

日本語指導教育研究会 事務局

第4回 研修会

全体研修1 会場校 壱岐中学校の取組み

・壱岐中学校 越智公子先生

壱岐中学校の日本語教室は福岡市内の学校で最も歴史のある日本語教室とされています。国際理解教育に力を入れており、1年、2年、3年と段階的に国際理解を深める取り組みがなされています。また入学直後から国際オリエンテーションを行い、VIS（バーチャル・インターナショナル・スクール）を生徒達が体験し、母国語以外の言語で学ぶ難しさを学習します。



- 日本語指導で伝統のある学校で国際理解学習の行事がずっと続いており、素晴らしいと思いました。
- 日本語指導が日本語指導外の生徒達にも役立つものはこれからあるべき形の一つであるのではないかと思います。
- 将来のライフスタイルを見通した話合いをもつことで意欲につながる面があるのではないのでしょうか。

全体研修2 DLA（Dialogic Language Assessment）について

・日本語サポートセンター 池田尚登先生 ・城浜小学校 下條道子先生

DLA（JSL対話型アセスメント）の効果的な活用方法についてお話しいただきました。評価だけでなく、指導計画の改善にも結果をいかしていきます。その後、実際にDLAを実施したビデオを見ながら、全員で評価を行いました。その後、評価や実施方法についてグループで改善点を話合いました。



- DLAの結果を個別の指導計画にいかして、子ども達に還元できることがわかったので良かったです。
- 評価参照枠が目標ということがわかりました。
- 実際に子どもの声を聞いて考えることができたので、評価する経験ができて良かった。グループで評価についての意見が分かっていたので、よくその点について考えることができました。

全体研修3 小中部会

・筑紫丘小学校 小田潤子先生 ・筑紫丘小学校 原田徳子先生

小学校と中学校のグループに分かれて、それぞれの日本語指導の現状や課題などについて交流を行いました。それぞれの学校の具体的な実践や課題について意見交換を行うことができ、これからのよりよい教室運営にいかすことができそうです。



- いろいろな方面からの課題が出され、それに対する交流ができて大変有意義だった。
- 担任とどう連携したらよいかいろいろアドバイスを受け、とても参考になりました。宿題の出し方、教材などについても明日から実践していきたいと思います。
- 日本語の指導の時間をどのように効果的に行うのか先生達とこれから作り上げたいと思います。